

# 多胡郡正倉跡の最新発掘調査成果

## — 銅鏡出土遺構を中心として —

高崎市教育委員会文化財保護課 主査 小根澤 雪絵

### 1. 多胡碑周辺遺跡発掘調査の概要

高崎市教育委員会では、特別史跡多胡碑周辺において、多胡碑に記された古代多胡郡の役所跡に関連する遺跡を確認するための調査を平成23年度より継続して実施しています。平成28年度に至る第6次調査までにおいて、役所跡の一つ**多胡郡正倉跡**の所在と範囲を確定しています。多胡郡正倉跡は建郡の経緯を記した多胡碑の文字史料と遺跡の内容が一致する全国でも貴重な遺跡として、令和2年3月に国の史跡に指定されました。

平成30年度からは、多胡郡正倉跡よりも一段低い段丘面へ調査を展開しています。多胡郡正倉跡と同じ時代とみられる正方位の区画溝を確認し、今年度も区画溝の範囲やその内部の遺構について検討しているところです。



国土地理院発行電子地形図

### 2. 発見された古墳時代前期の銅鏡

**銅鏡**は、令和3年度第11次調査において、多胡郡の役所跡に関連する、奈良・平安時代の遺構を確認するために、手作業で土を掘り下げていたところ、地上から約40センチメートルの深さから、鏡面を上にした状態で出土しました。鏡面は破損のない完形で、銅錆の少ない良好な保存状態で出土しました(写真1)。周辺を調査したところ、長方形をした長軸約75センチメートル、短軸約54センチメートルの遺構を確認しました。銅鏡はこの遺構の東側の短辺寄りから出土しました(写真2)。

銅鏡の直下からは、**鉏(やりがんな)**と呼ばれる鉄製工具が出土し、鏡の周辺からは**ガラス小玉**と**管玉(くだたま)**が出土しました。銅鏡、鉄製工具、ガラス小玉のセットから、古墳時代前期の遺構と考えられます。出土品のセットは、古墳時代前期の埋葬施設に納められた副葬品としてよく見られるものです。しかし銅鏡が出土した長方形の遺構周囲では、古墳に伴う周溝(しゅうこう)や盛土などの痕跡は確認できませんでした。



写真1 鏡面を上にして出土した銅鏡



写真2 銅鏡が納められた遺構(東から)

### 3. 銅鏡の種類と作られた年代

出土した銅鏡は、古墳時代前期に日本国内で製作された倭鏡(わきょう)と呼ばれるものです。直径 10.47 センチメートル、重さ 126 グラムです。鏡の裏側には鳥頭のようにとがった口先をもつ獣像を四つの突起(乳)の間に配置しています。デザインの特徴から「鳥頭四獣鏡系(ちょうとうしじゅうきょうけい)」に属する銅鏡と考えられます。鏡の裏面には、重ねて納められた鉄製品の錆が付着しています。

「鳥頭四獣鏡系」の製作年代は、古墳時代前期中頃～中期初頭で、本資料はデザインの特徴から古墳時代前期後半頃と考えられます。現在のところ本資料と同じ鑄型で作られた銅鏡は確認できていません。なお、県内で鳥頭四獣鏡系に属する銅鏡が発掘調査で出土したのは初めてのことです。



写真3 銅鏡裏面(原寸大)

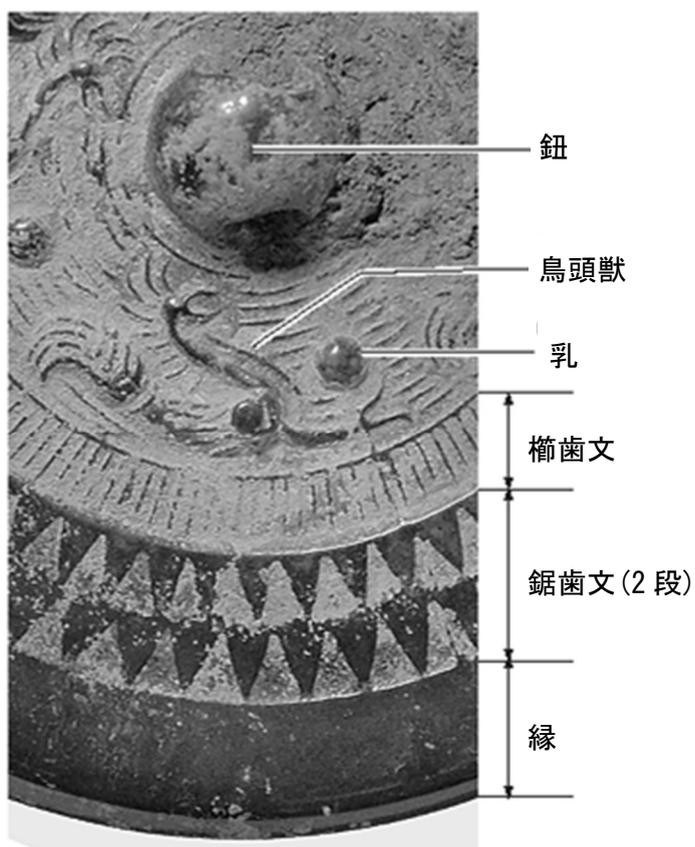


写真4 銅鏡の部位名称

#### 銅鏡の文様

鏡裏面の中心には鈕(ちゅう)と呼ばれる穴のあいた突起があり、そこへ紐を通して結ぶことができます。鈕の周囲には、鳥のような頭の形をした獣像が右向きで四つ配置されています。とがった口ばしを開け、長い首にはたてがみのような獣毛が立ち、腹部から長い尾まで獣毛でおおわれています。足は前方へ伸ばし、足先には2本の鋭い爪が開いています。四つの鳥頭獣を配する鏡は「鳥頭四獣鏡系」と呼ばれ、全国で50数枚確認されています。

## 4. 銅鏡と共に出土した遺物

### 鉋(やりがんな)

やりがんなは木材の表面を細かく削り取り、平らに加工する鉄製の工具です。刃部の先端が数ミリメートル欠けていますが、本来の大きさは約 19 センチメートルです。銅鏡の直下から、ゆるやかに反り上がる刃部を上に向けて出土しました。鏡裏面と接していた、やりがんなの表面には、銅鏡の文様が錆化して写し出されています(写真5)。やりがんなの形状は、茎部から刃部まで同じ幅が続く、古墳時代前期の古いタイプです。茎部には木質が錆化して残り、木柄の痕跡と考えられます。同じような形状の工具は、前橋市の前橋天神山古墳(前期古墳)の主体部から出土しています(写真7)。



写真5 銅鏡直下から出土したやりがんな

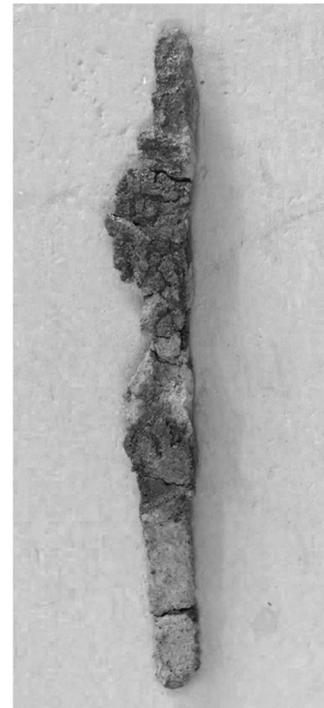


写真6 錆落とし後のやりがんな  
上が刃部(保存処理前)



写真7 参考：前橋天神山古墳出土やりがんな  
(前橋市教育委員会 1970『前橋天神山古墳図録』から)

### ガラス小玉・管玉

遺構から出土した玉類は、ガラス製の小玉8点、硬質な石で作られた管玉(くだたま)1点です。ガラス小玉4点は銅鏡と近い位置から、その他は遺構の中央付近から出土しました。遺構の土を砂振るいしたところ、新たにガラス小玉が13点出土しました。



写真8 ガラス小玉出土状況

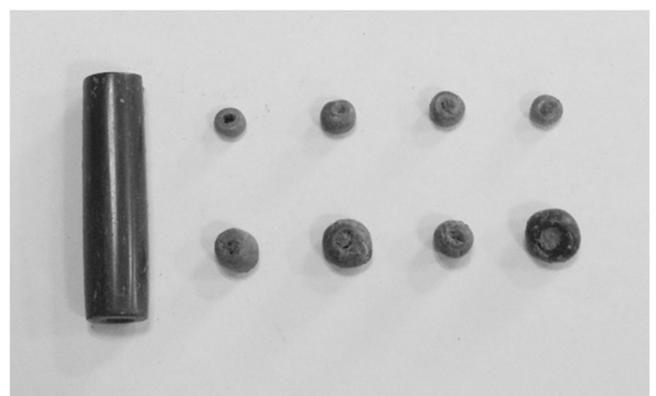


写真9 出土した玉類